〈２０２１年（Ｒ３年）〉

第１３回 地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会を開催しました

本交流会は，「おおいた教育の日」の趣旨に賛同して，県教育委員会や県内のほとんどの市町村からの発表をいただきながら開催してきました。昨年度は新型コロナの関係で延期となり、今回が１３回目となりました。近年，学校や家庭，地域における様々な取組みについて連携・協力が求められ，県内各地においても各種組織・団体が学校等で連携・協力した新しい取組みが行われています。特に，文部科学省及び県教育委員会においては，地域住民のネットワーク化による、地域と学校との協働を進めるシステムづくりのために，学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の導入と，地域学校協働本部の整備による地域学校協働活動を促進しています。今回も、６２名の参加者が互いに交流することによって実践者自身が活動エネルギーを蓄える交流会を開催することが出来ました。

※今回は新型コロナの対策について参加者に、マスクの着用や受付での消毒と検温（事務局で準備）をお願いし、研修会場では密にならないように例年の２倍の広さの大会議場での開催などの配慮をしました。

テ ー マ　　地域と学校が協働して子どもを育てる仕組みづくりを語ろう
～地域学校協働本部とコミュニティ・スクールの一体的な取組みを目指して～
主　　催　　ＮＰＯ法人大分県協育アドバイザーネット／東国東地域デザイン会議
／大分大学高等教育開発センター
会　　場　　「梅園の里」　（国東市安岐町富清2244）
☆梅が咲き誇る三浦梅園生誕の地～「梅園の里」～☆
期　　日　　令和３年（2021年）２月２７日（土）
参 加 者　　６２名（教職員・コーディネーター・行政職員・地域住民・研究者等）

■10:00　　開会行事

■10:20～12:20 第１部　地域での実践活動の発表

＜実践事例の概要＞

①国東市（萱島 かよ　協育コーディネーター）

テーマ：国東市協育ネットワーク事業を支えるコーディネーターの役割

国東市は、各中学校区に１名のコーディネーターを旧町ごとにある中央公民館（４館）に配置して「国東市協育ネットワーク事業」を推進し、次代を担う児童生徒の育成と、地域教育力の向上に取り組んでおり、日常のコーディネートやコミュニティ・スクールとの関わりについて発表していただきました。

②別府市（縄田早苗　社会教育課長補佐兼社会教育主事）

テーマ：地域学校協働活動統括コーディネーター制度

平成19年度に文部科学省委託事業を受託して以来、早くから学校支援のためのコーディネーターの役割を担う職員を配置し、Ｒ２年度からのモデル的な取組である「統括コーディネーター」を中学校に配置し、域内の各小中学校の地域コーディネーターと協力して地域学校協働活動を推進している仕組みづくりについて発表していただきました。

③玖珠町（梅木洋一　学校運営協議会委員長）

テーマ：玖珠町立くす星翔中学校 学校運営協議会の活動

玖珠町は2020年（令和元年）に中学校７校が統合して誕生した玖珠町立くす星翔中学校の学校運営協議会の役割や活動について、学校運営協議会の一定の権限と責任を認識して活動を進めている取組について発表していただきました。

④中津市（山本健吾　社会教育課　生涯学習推進室長）

テーマ：今津校区学校の地域学校協働本部とコミュニティ・スクールの協働の仕組み

2019年度に今津小・中学校に学校運営協議会制度を導入して、それまでに「いきいき今津まちづくり協議会」の「協育部会」で取り組まれてきた学校支援活動＜協育ネットワーク＞」の取組と協働したコミュニティ・スクールの活動を始めました。今回は今津小・中学校のコミュニティ・スクールの取組と地域学校協働本部（今津校区学校応援団＜協育ネットワーク＞）の一体的な取組について発表していただきした。

■13:10～16:20 第２部　地域と学校が協働して子どもを育てる仕組みづくりを考える

《１》13:10～14:30　基調報告

＜報告者＞　中川 忠宣　ＮＰＯ法人大分県協育アドバイザーネット理事長

テーマ：《大分県版》学校と地域の新たな協働(協育)のＱ(課題･質問）＆Ａ(アドバイス)

～市町村アンケートから見る学校運営協議会制度と地域学校協働本部の体制整備～

令和２年度めじろん基金の補助事業を受けて大分県内１８市町村教育委員会の実態調査、それに対応したアドバイス資料（Ｑ(課題･質問）＆Ａ(アドバイス)を使いながら、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の進め方についての報告がありました。

《２》14:50～16:20 特別講演と研究協議

＜講師＞ 井上 尚子 氏（文科省委嘱 ＣＳマイスター）

特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク 事務局長

テーマ：地域学校協働本部とコミュニティ・スクールの一体的な取組みを目指して

※新型コロナの関係で来県出来なかったために、「学校運営協議会の運営に関する基本的な方向性と全国の取組内容」「地域学校協働活動の進め方と一体的な取組の方策について」の２本の動画作成をお願いしました。

＜研究協議＞

最後は岡田教授のファシリテートで以下のような様々な意見が出されました。

①学校運営協議会委員はコーディネーターのことを知らないという現状、コーディネーターは学校支援のことしか考えていないという現状があり、教育委員会が具体的な活動についての研修会を多く開いて欲しい。

②行政としては、コーディネーターと学校運営協議会を繋ぐ役割を積極的にすることが求められる。

③地域の企業とのネットワークや、PTAという組織の活用などを積極的に進めていく必要がある。

等々

■参加者の学びや感想の紹介（研修会後のアンケートより）

多くの感想等をいただきましたが、それぞれの立場からの感想を紹介します。

（コーディネーター）「学ぶことが沢山ありすぎてどうしよう！」という感じです。基本的にはCSのあり方を教職員に徹底し、多くの教職員がコーディネーターを利用してくれるように情宣活動するのが一番だと思います。学校運営協議会と地域学校協働活動とをタイアップしてドンドン前に！

（教職員）一昨年からCSの学校のコーディネーターになり、地域の方々の活動を初めて知りました。今日の研修会に参加して、講師の話や協議の中での様々な立場からの意見を聞いて大変勉強になりました。「まず、出来ることから何かしよう！」という言葉に実践意欲がわきました。学校運営協議会に課題解決の方法を諮ること、学校運営協議会と教職員の議論の大切さなどが分かりました。深い学びをありがとうございました。

（学校運営協議会委員）学校だけ、地域だけでなく、両者の活動がかみ合うことの大切さを再確認できました。学校運営協議会委員として１年に１回は研修する必要があることがよく分かりました。

（教育委員会職員）各地区の実践発表はそれぞれの実態に応じて工夫された内容でした。学校・地域・御製の役割について改めて考えさせられました。また、活動を行う上ではスピードと有効性が必要であると感じました。そのためにも仕組みを整えることや、人材の確保をしていかなくてはならないと思います。本日の研修会、ありがとうございまし